



北海道電力株式会社

(東証プライム市場・札幌証券 証券コード9509)

会社説明会資料

2026年10月6日
代表取締役 副社長執行役員
上野 昌裕



コーポレートキャラクター:エネモ

1. 北海道電力のご紹介

ほくでんグループの事業のあらまし

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

経営テーマと具体的な取り組み

3. 経営目標・株主還元

経営目標と2025年度実績・株主還元方針

1. 北海道電力のご紹介

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

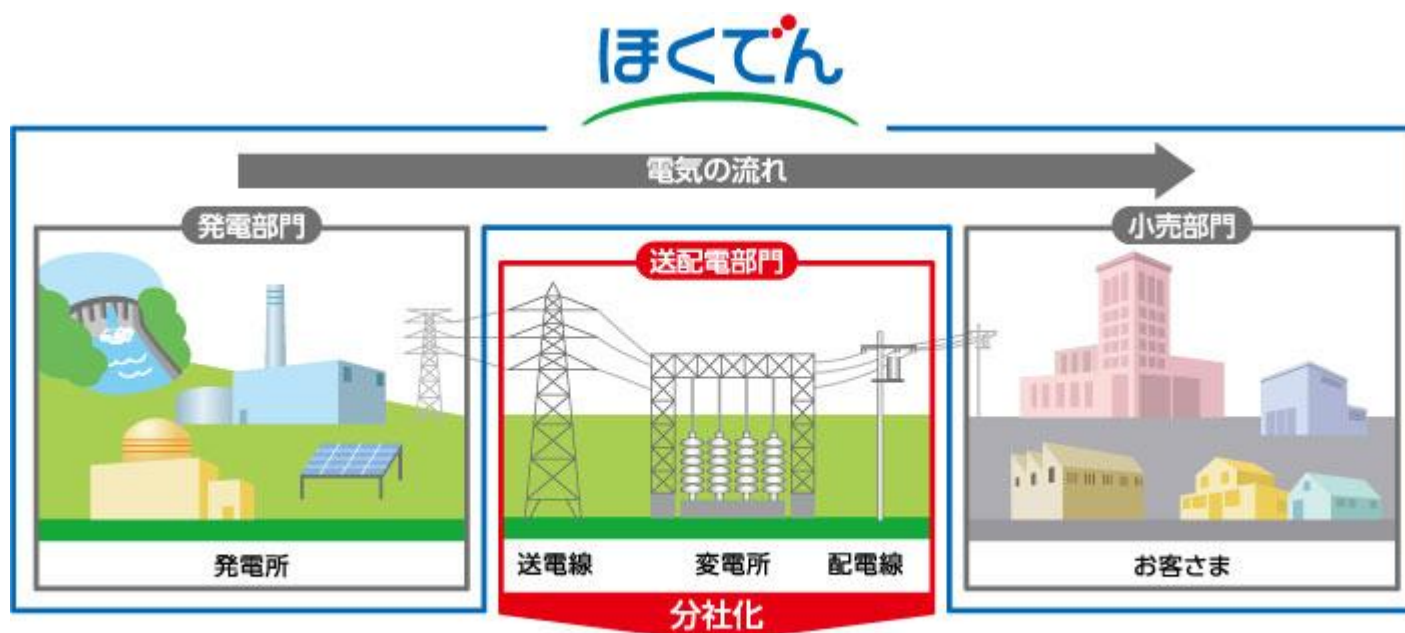
3. 経営目標・株主還元



会社名	北海道電力株式会社（通称:「ほくでん」）
設立	1951年5月1日
資本金	114,291百万円
上場証券取引所	東証プライム市場, 札証（証券コード9509）
株主数	普通株式:117,990名, B種優先株式:2名 (2026年3月31日時点)
主な事業内容	発電・小売電気事業, ガス供給事業など
事業エリア	主に北海道全域（小売電気事業は首都圏でも実施）

1. 北海道電力のご紹介

- 北海道電力では、電気事業のうち発電・小売事業を行っています。
- また、子会社である北海道電力ネットワークが、北海道における一般送配電事業を行っています。



 ほくでんネットワーク

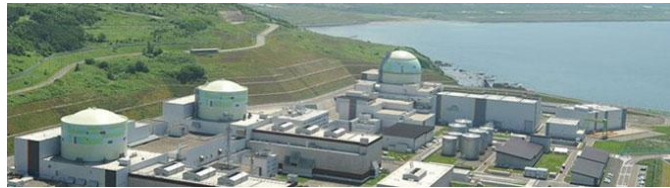
2020年4月に分社化

1. 北海道電力のご紹介

[北海道電力の主な発電所]



石狩湾新港発電所(LNG火力)



泊発電所(原子力)



京極発電所(純揚水)



森発電所(地熱)



伊達ソーラー発電所(太陽光)



雨竜発電所(水力)



新冠発電所(混合揚水)



苫東厚真発電所(石炭火力)



高見発電所(混合揚水)

北海道電力保有の発電設備

水力 発電設備	50か所 163万kW
汽力 発電設備	7か所 446万kW
原子力 発電設備	1か所 207万kW

(2026年3月31日現在)

- 電気事業の他に、都市ガス事業(ほくでんガス)や、ESP(エネルギーサービスプロバイダ)事業も手掛けています。

都市ガス「ほくでんガス」

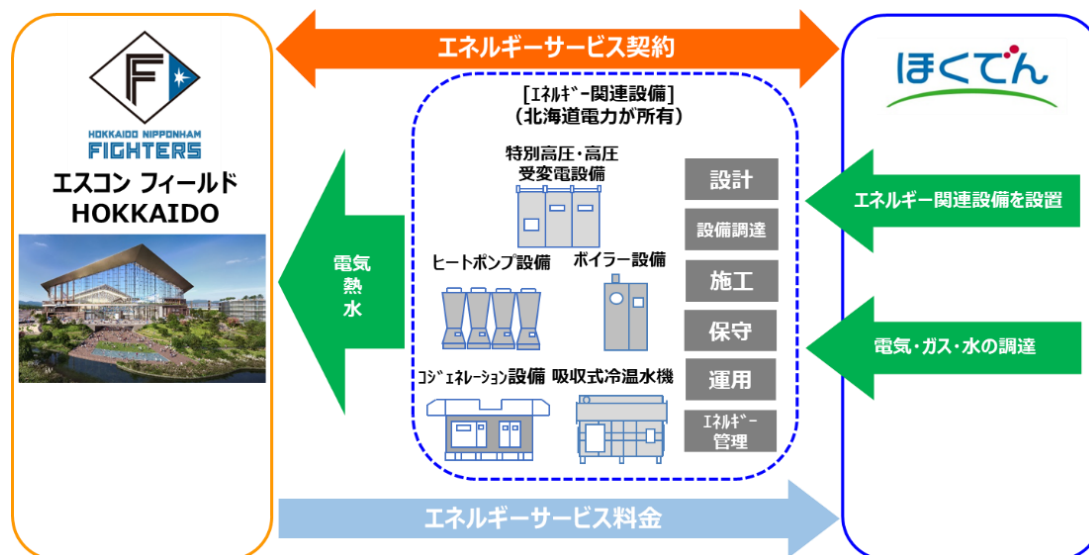
- ▶ 札幌市近郊の道央圏※で都市ガスをご利用のお客さまにサービスを提供しています。



※札幌市・小樽市・石狩市・北広島市・千歳市〔泉沢地区を除く〕・恵庭市

ESP (エネルギーサービスプロバイダ) 事業

- ▶ ヒートポンプ設備などの省エネ・高効率機器の導入から、エネルギー調達、効率的な設備運用・保守管理などを、一括で行っています。



1. 北海道電力のご紹介

- 北海道以外では、首都圏の個人・法人のお客さまへも電力小売を行っています。

首都圏への電力小売



電気料金
プランの詳細・
お申し込みは
こちら!



プロモーションコード

1164

お申込みフォームの
プロモーションコード欄へは
上記の数字を忘れずに
ご入力ください。

- 北海道電力をはじめとした「ほくでんグループ」計14社はさまざまな分野でお客さまのビジネスの発展をお手伝いしています。

電気事業

省エネ

再生可能エネルギー・環境

土木・建築

資機材調達

ビジネスサポート

[北海道電力の主な経営指標の推移]

決算年月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
売上高(連結)	6,634億円	8,888億円	9,537億円	9,020億円	8,559億円
経常損益(連結)	138億円	△292億円	873億円	640億円	613億円
当期純損益(連結)	68億円	△221億円	662億円	642億円	439億円
純資産額(連結)	2,857億円	2,581億円	3,335億円	4,073億円	4,736億円
総資産額(連結)	19,928億円	20,933億円	21,416億円	22,440億円	24,710億円
自己資本比率(連結)	13.68%	11.69%	14.91%	17.47%	18.49%
ROE(連結)	2.50%	△8.58%	23.47%	18.06%	10.37%
1株当たり配当額(単独) ※普通株式	20円	—	20円	20円	32円
従業員数 (単独) (連結)	2,337人 10,226人	2,315人 10,005人	2,257人 9,206人	2,302人 9,165人	2,400人 9,239人
最高株価	562.0円	546.0円	854.7円	1,750.0円	1,295.0円
最低株価	443.0円	410.0円	489.0円	712.0円	599.4円

1. 北海道電力のご紹介

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

3. 経営目標・株主還元



1. 北海道電力のご紹介

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(1) 北海道の発展可能性

3. 経営目標・株主還元



2. ほくてんグループの成長戦略と取り組み

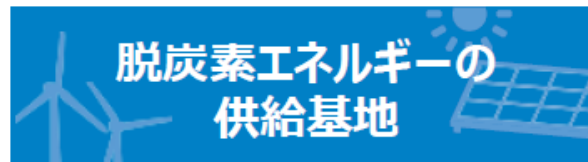
(1) 北海道の発展可能性

- 豊富な自然や広大な土地を有する北海道は、食料だけでなく、デジタル産業の集積地や脱炭素エネルギーの供給基地として、日本の持続可能性向上に大きく貢献し、世界的にもさらに魅力あふれる地域になっていくと考えられます。

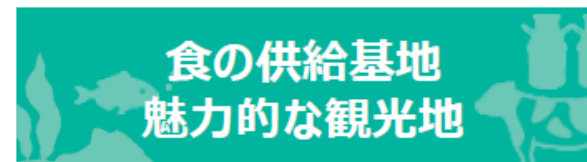
北海道の発展可能性



- 次世代半導体工場の建設が進んでおり、関連産業の集積が期待される。
- AIの活用やDX進展を見据え、北海道は、データセンターの全道展開を推進。



- 泊発電所の再稼働に加え、洋上風力をはじめとする再生可能エネルギーの導入拡大など、脱炭素電力の拡大が見込まれる。



- 豊富な農林水産資源を持つ北海道は、日本の食料自給率の向上に寄与。
- 雄大な自然やパウダースノー、温泉などの観光資源は国内外から人気が高い。

北海道を主な事業基盤とする当社にとって絶好の事業機会の到来

2. ほくてんグループの成長戦略と取り組み

(1) 北海道の発展可能性

【北海道の半導体産業とデータセンター】

【半導体】

北海道の半導体製造関連企業は169件立地※1

(2026年3月現在)

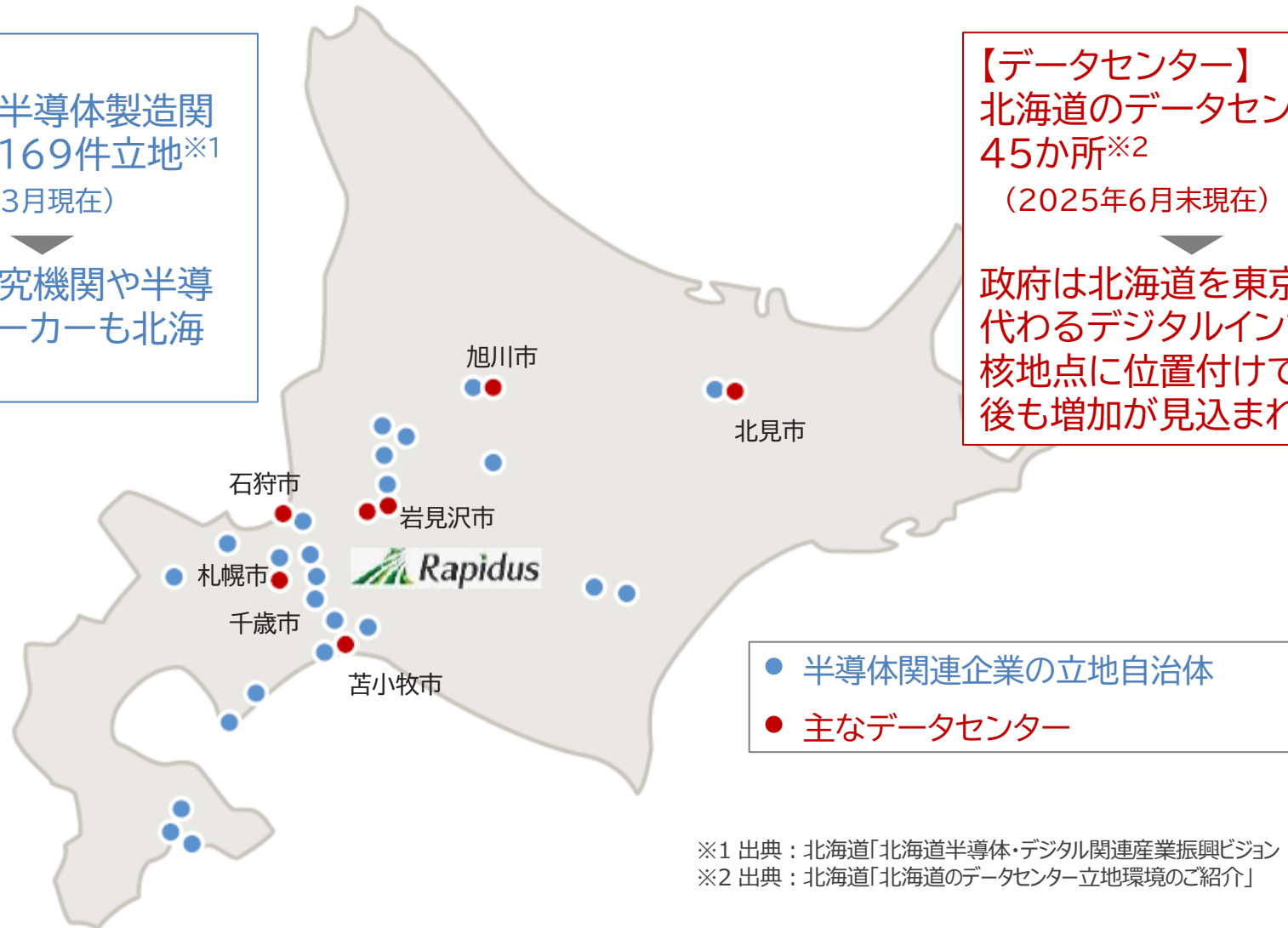
海外の研究機関や半導体装置メーカーも北海道に関心

【データセンター】

北海道のデータセンターは45か所※2

(2025年6月末現在)

政府は北海道を東京・大阪に代わるデジタルインフラの中核地点に位置付けており、今後も増加が見込まれる



※1 出典：北海道「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン（改訂版）」

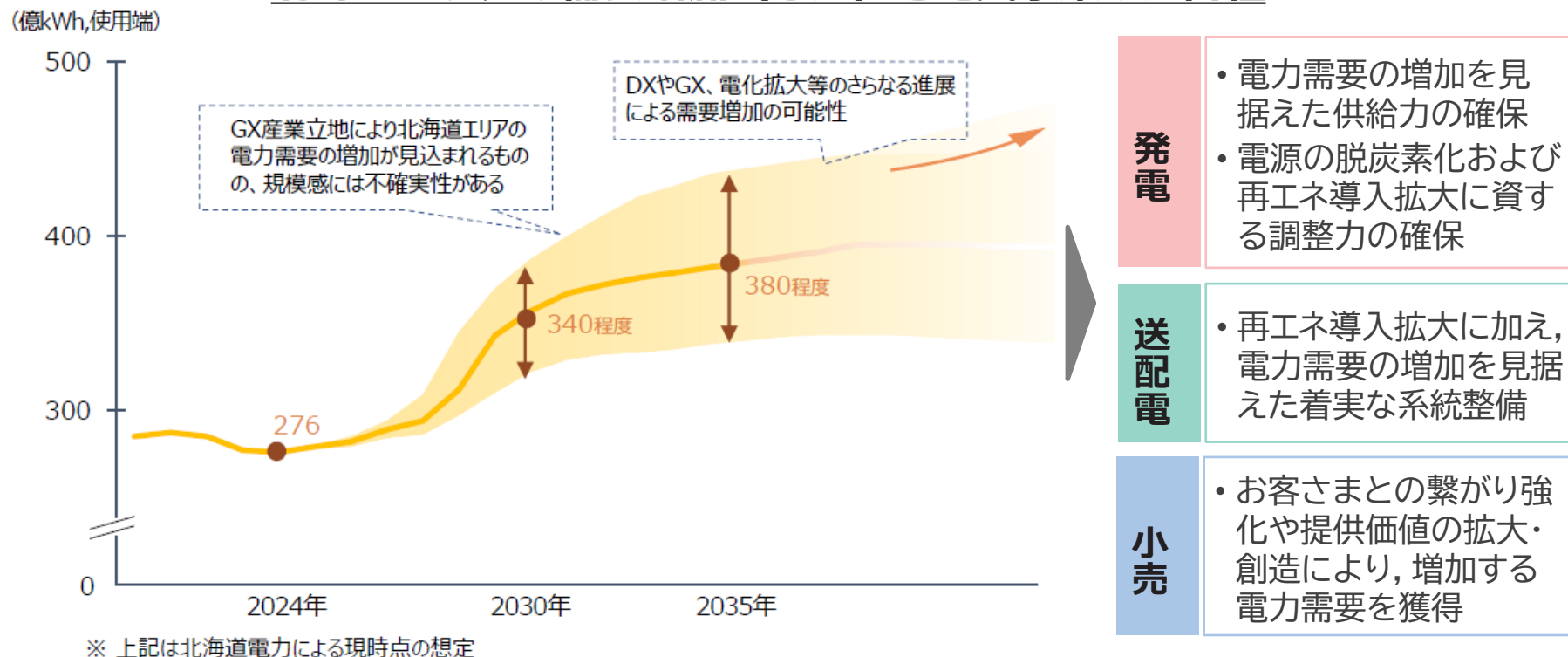
※2 出典：北海道「北海道のデータセンター立地環境のご紹介」

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(1) 北海道の発展可能性

- 北海道では, GX(グリーン転換)産業立地により電力需要の増加が期待されます。
- ほくでんグループは, 安全性の確保を大前提に, 安定供給の確保・経済効率性・環境適合を, それぞれのバランスを取りながら同時に実現し, お客さまへ電気をお届けし続けます。

北海道エリアの需要増加（想定）と電気事業の方向性



1. 北海道電力のご紹介

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み
(2) 経営テーマと事業ポートフォリオ

3. 経営目標・株主還元



2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(2) 経営テーマと事業ポートフォリオ

- 2025年3月に公表した「ほくでんグループ経営ビジョン2035」では、ほくでんグループが北海道の発展に貢献できるとの認識のもと、以下の3点を経営テーマと位置付けました。

2035年に向けたほくでんグループの経営テーマ

ほくでんグループの事業成長と北海道の発展

北海道の発展に向けたGX実現への挑戦

北海道へのデジタル産業集積に貢献するため、需要増加や再エネ導入拡大を見据えて電力インフラを着実に整備するとともに、エネルギーの脱炭素化に挑戦

新たな価値創造に向けた挑戦

北海道の産業振興や地域課題の解決に貢献するため、エネルギー事業を中心としつつ、非エネルギー事業にも挑戦

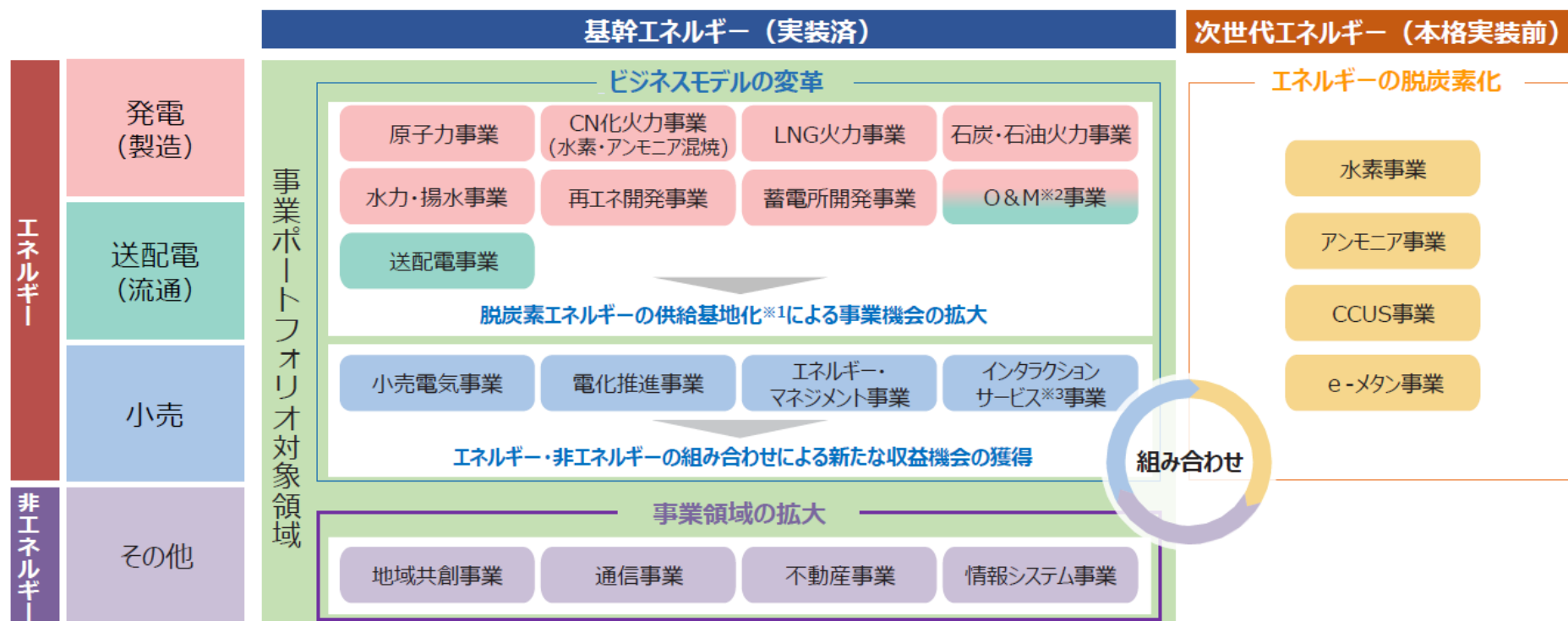
持続的な成長に向けた経営基盤の強化

上記をはじめとする事業変革や挑戦に向け、経営基盤を強化

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(2) 経営テーマと事業ポートフォリオ

- 電力の安定供給確保やカーボンニュートラルの実現に資する以下の事業ポートフォリオの構築を目指します。



※1 北海道の脱炭素エネルギーを活用するための積極的な投資により、北海道にとどまらず、全国への脱炭素エネルギーの供給に結びつけていくビジネスモデル（将来的には電力のみならず、次世代エネルギーについても全国へ供給することを想定）

※2 O&M「Operation(運用) & Maintenance(保守)」の略

※3 インタラクションサービス:エネルギー分野にとどまらない様々な商品やサービスを一体的に提供する事業

1. 北海道電力のご紹介

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み (3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦

3. 経営目標・株主還元

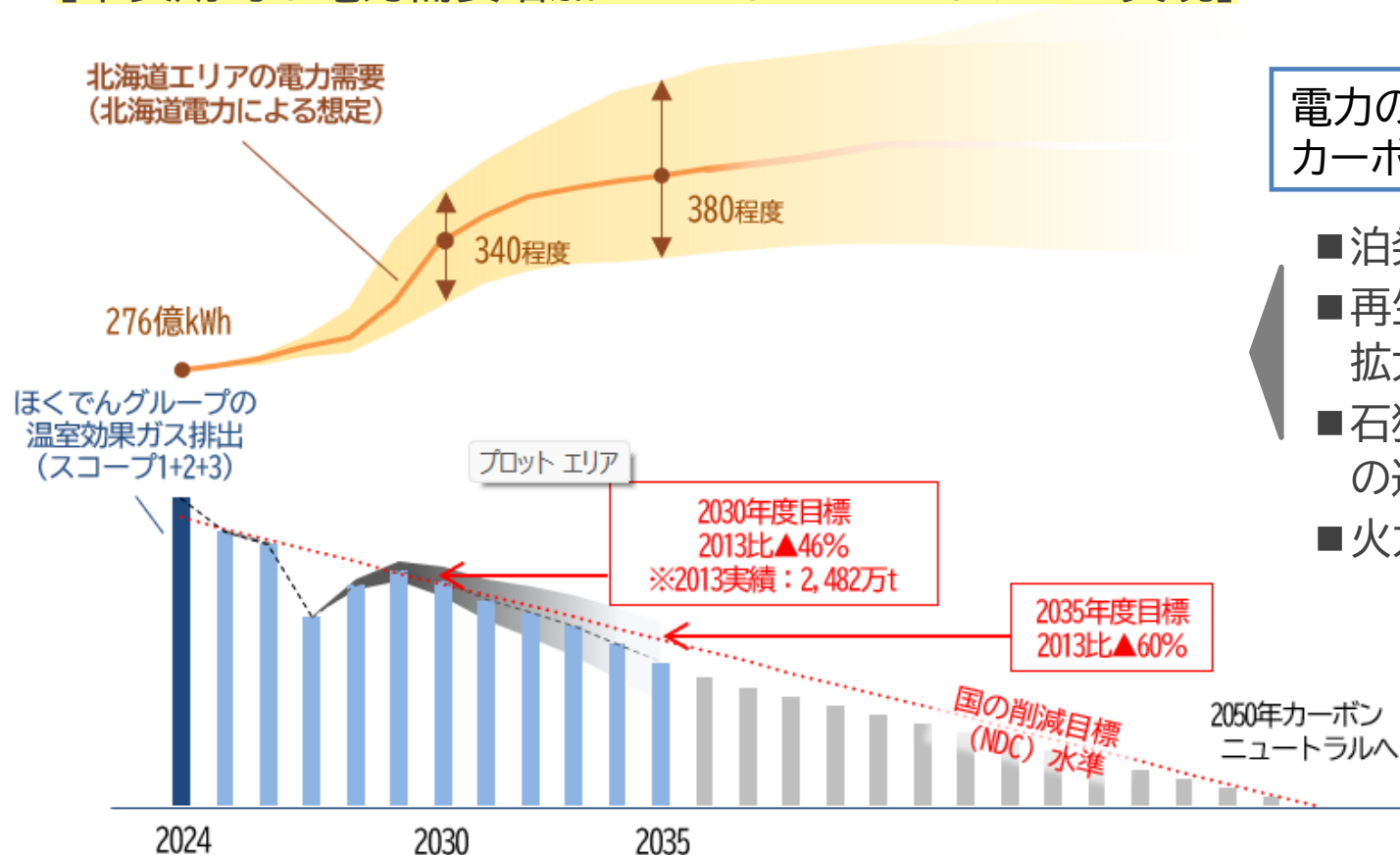


2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦

- エネルギー供給の担い手として電力の安定供給の責任をしっかりと果たしていくとともに、お客さまのニーズに的確にお応えすることで、事業機会を確実に捉え、収益の拡大に繋がります。

[中長期的な電力需要増加とカーボンニュートラルの実現]



※ 経営ビジョンより抜粋(一部加工)。

電力の安定供給および2050年 カーボンニュートラルを実現

- 泊発電所の再稼働
- 再生可能エネルギーの導入拡大
- 石狩湾新港発電所2, 3号機の運転開始
- 火力発電所の脱炭素化

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【原子力】

- 原子力は、燃料供給の安定性や長期的な価格安定性、発電時にCO₂を排出しない等、カーボンニュートラルの実現と安定供給の確保を支える重要な電源です。

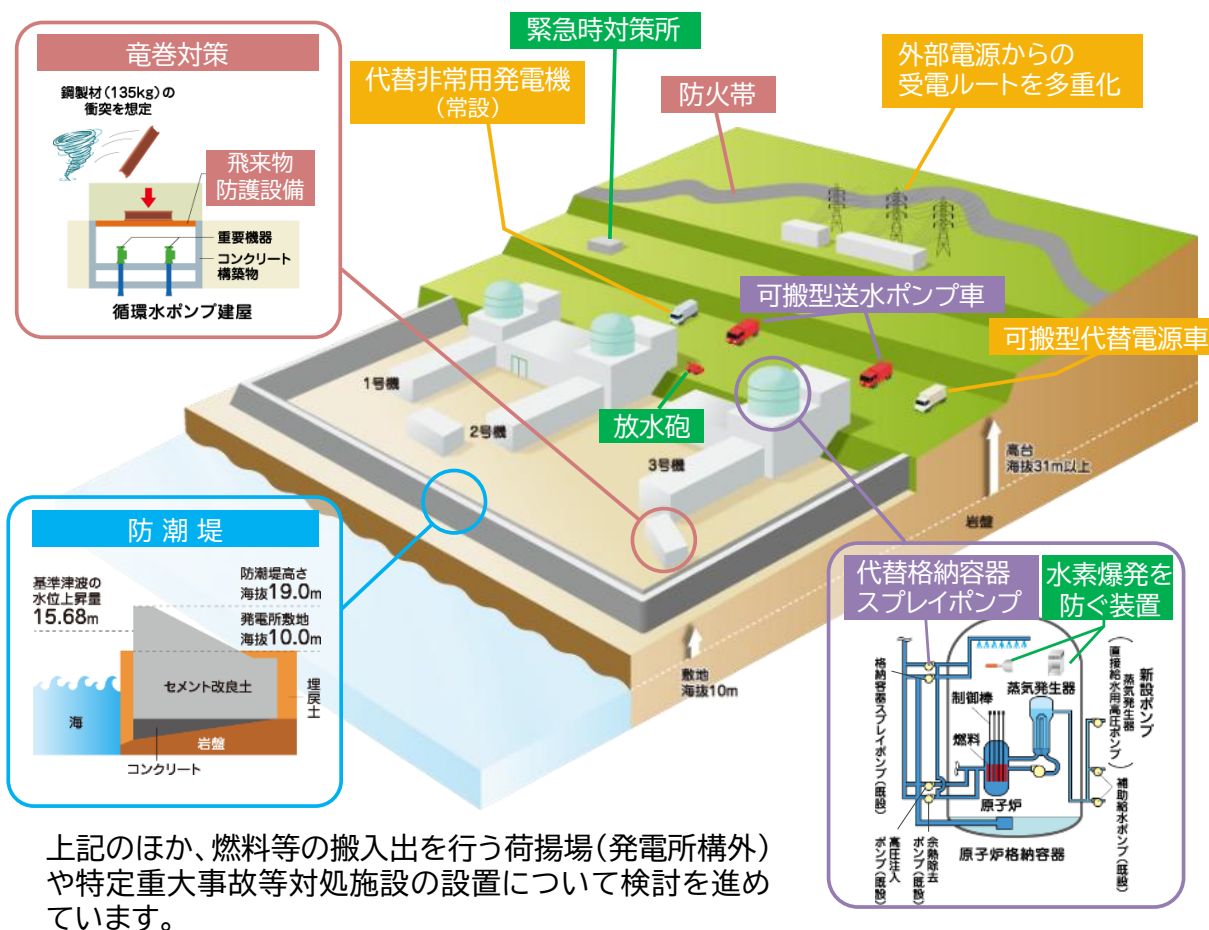
[泊発電所の安全性向上の取り組み]

- これまでの安全対策にとどまることなく、重大事故リスクの一層の低減に継続的に取り組んでおり、「世界最高水準の安全性」を目指し、継続的に技術力の維持・向上を図っています。

安全最優先の 価値観の共有

技術力の 維持・向上の取り組み

コミュニケーション活動 の推進



2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【原子力】

〔泊発電所の安全性向上の取り組み〕



訓練の様子



可搬型海水送水ポンプ車



社長と所員の意見交換



説明会の様子

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【原子力】

- 2027年のできるだけ早期の泊発電所3号機再稼働に向け、設計および工事の計画の認可や保安規定変更認可の審査、使用前事業者検査、防潮堤等の安全対策工事に総力を挙げて取り組んでいきます。
- 泊発電所1・2号機については、2030年代前半に全基再稼働を目指しています。

[泊発電所3号機再稼働に向けた工程]

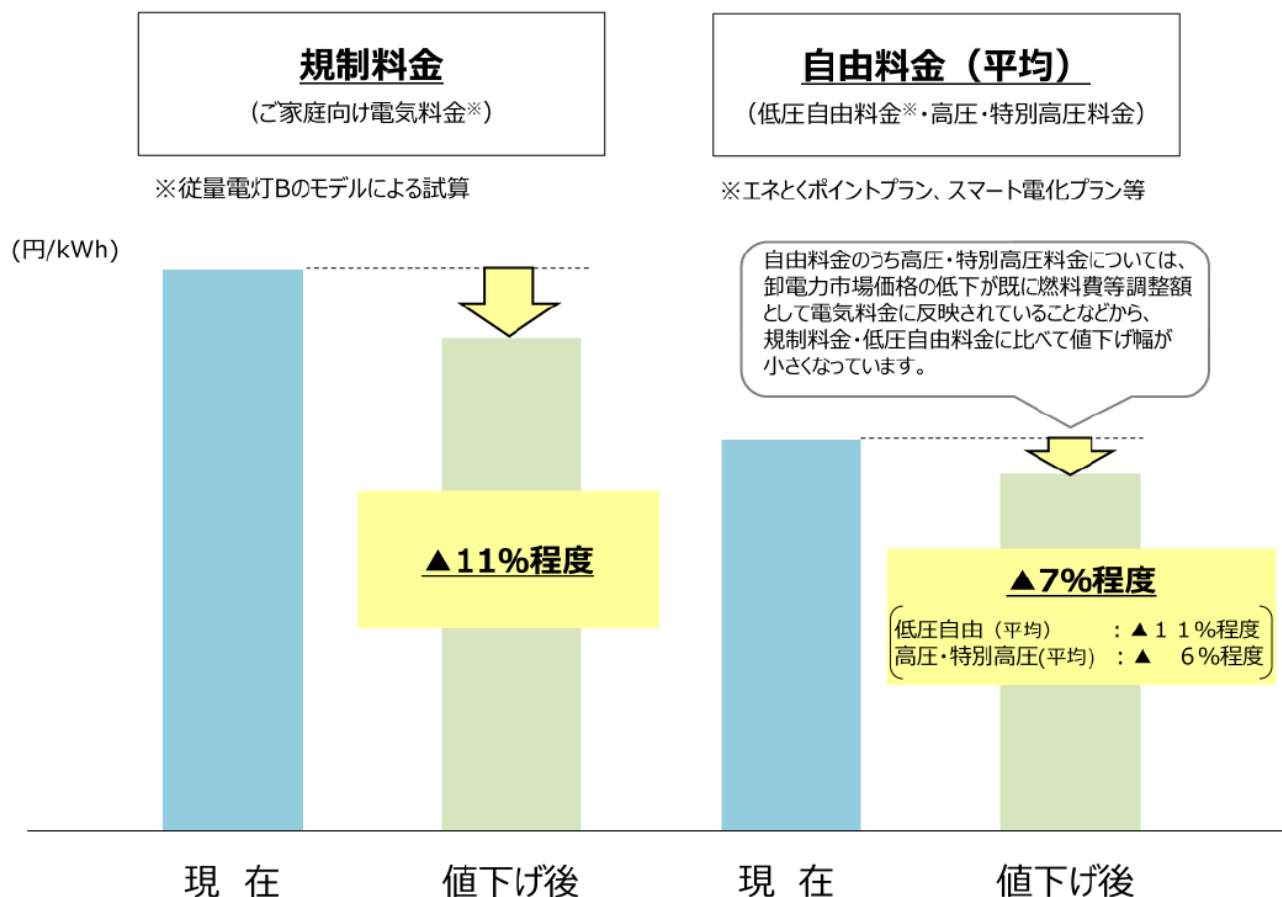
	主な項目	～2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
新規制基準適合性 審査・検査	設置変更許可審査		▼2025年7月30日 設置変更許可		再稼働
	設計及び工事計画認可（設工認）審査		▼2025年7月10日 補正		2027年のできるだけ 早期の再稼働を目指す
	保安規定変更認可審査				
	使用前事業者検査				
安全対策工事	防潮堤	準備工事	新設防潮堤設置工事（2027年8月に工事完了）		
	その他安全対策	建屋の耐震化工事など			

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【原子力】

- 2025年10月, 泊発電所3号機の再稼働後の電気料金の値下げ見通しを取りまとめ, お知らせしました。

[電気料金値下げ見通し水準(イメージ)]



2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【再エネ】

- 再生可能エネルギー電源の新規地点の開発や出資参画の検討を進めています。

【具体的な取り組み事例】

森町の地熱バイナリー発電所



(2023年11月運開)

苫小牧市のバイオマス発電所



(2026年2月運開)

真勲別発電所（水力）の リプレース工事



(2025年1月完了)

石狩湾の洋上風力発電



(2024年1月運開)

恵庭市の太陽光発電所



(2025年8月運開)

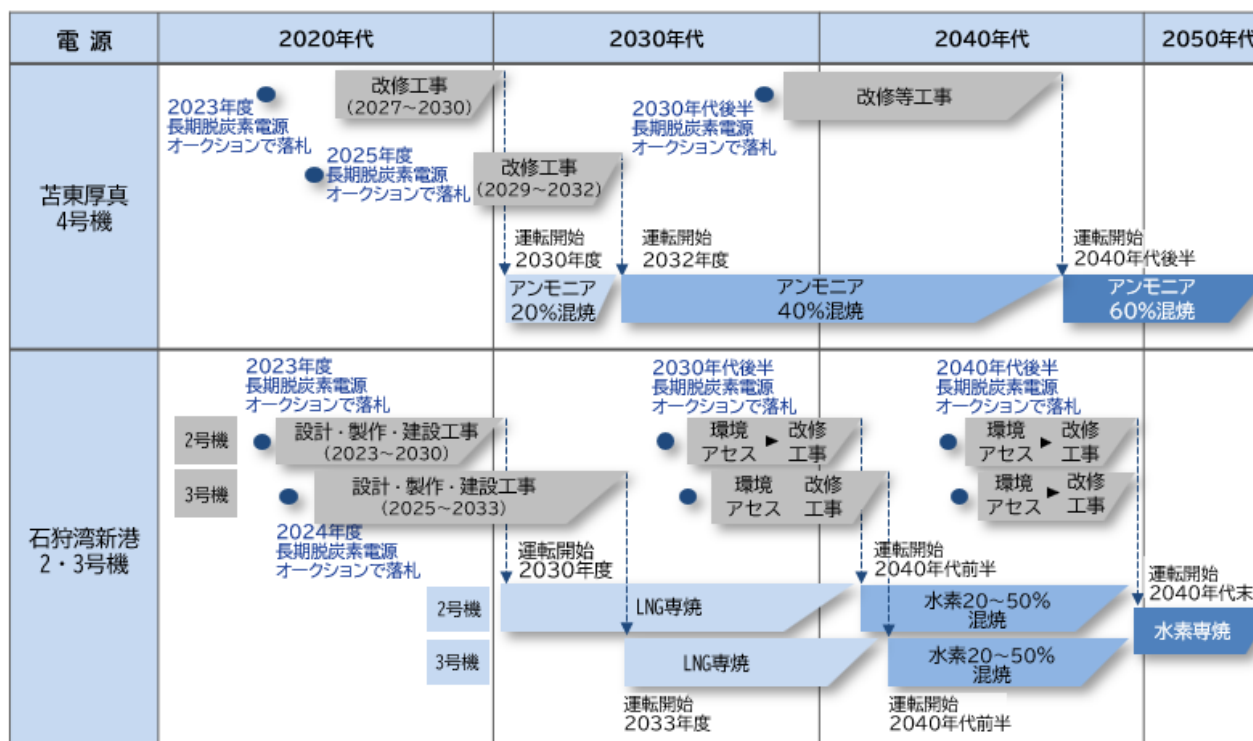
「2035年度までに300万kW以上増(開発規模ベース)」の目標達成を目指します

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【火力発電の脱炭素化】

- 天候の変化により急な出力変動等が生じる可能性のある再エネの大量導入を進めていく中においても、電力の安定供給を果たしていくためには、火力発電の持つ調整力等が重要となります。
- 将来的な火力発電の脱炭素化を目指し、アンモニアや水素等の脱炭素燃料への転換、CCUS※技術の活用等の取り組みを進めていきます。※CCUS:CO₂の回収・有効活用・貯留

[脱炭素化に向けた計画イメージ]

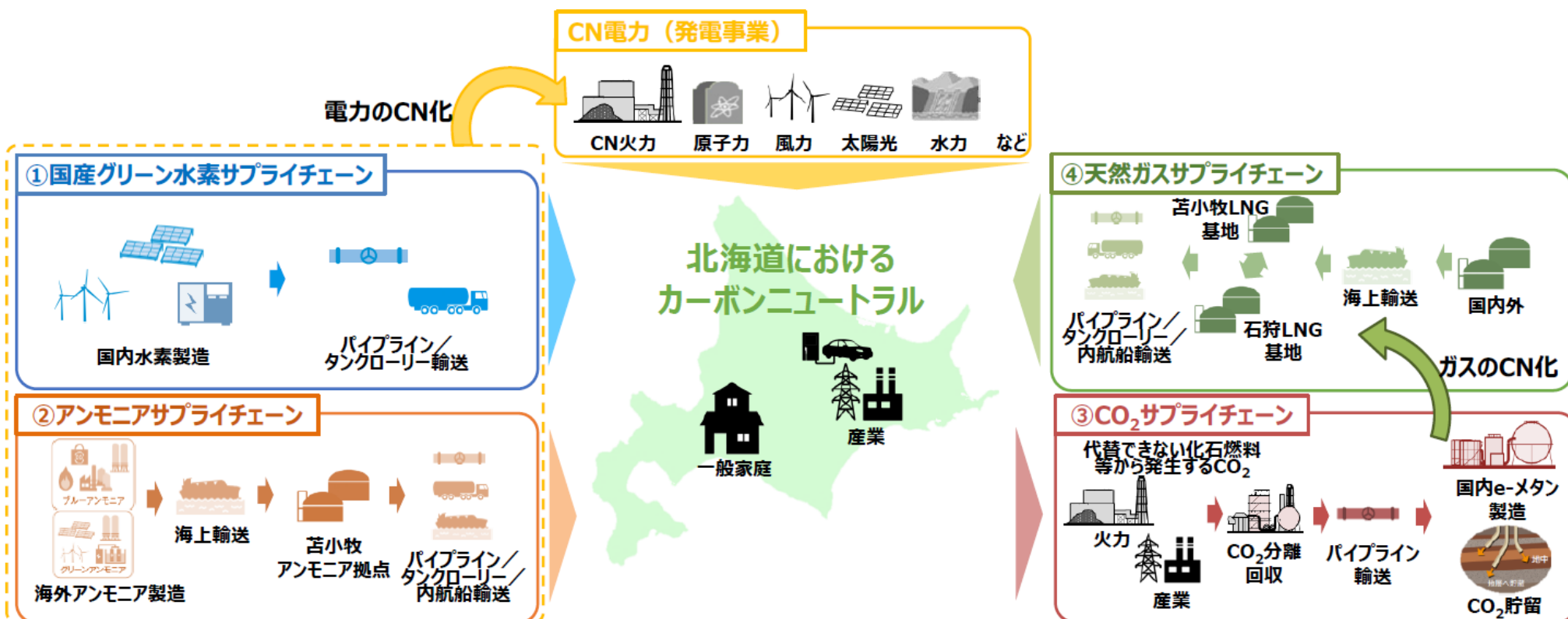


2. ほくてんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【新たなエネルギーサプライチェーンの構築】

- 当社は、苫小牧・厚真地域を起点とした新たなエネルギーサプライチェーンを構築し、多様な脱炭素ソリューションを提供することで、2050年の北海道のカーボンニュートラル実現に貢献していきます。

【北海道におけるカーボンニュートラルの実現イメージ】

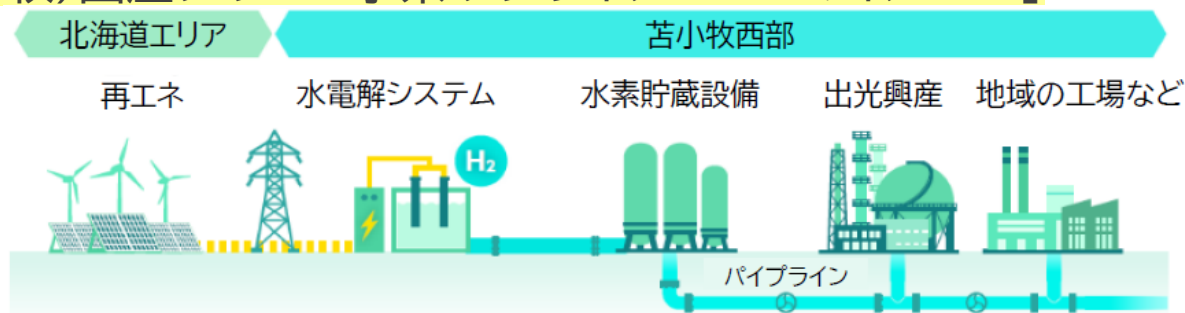


2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

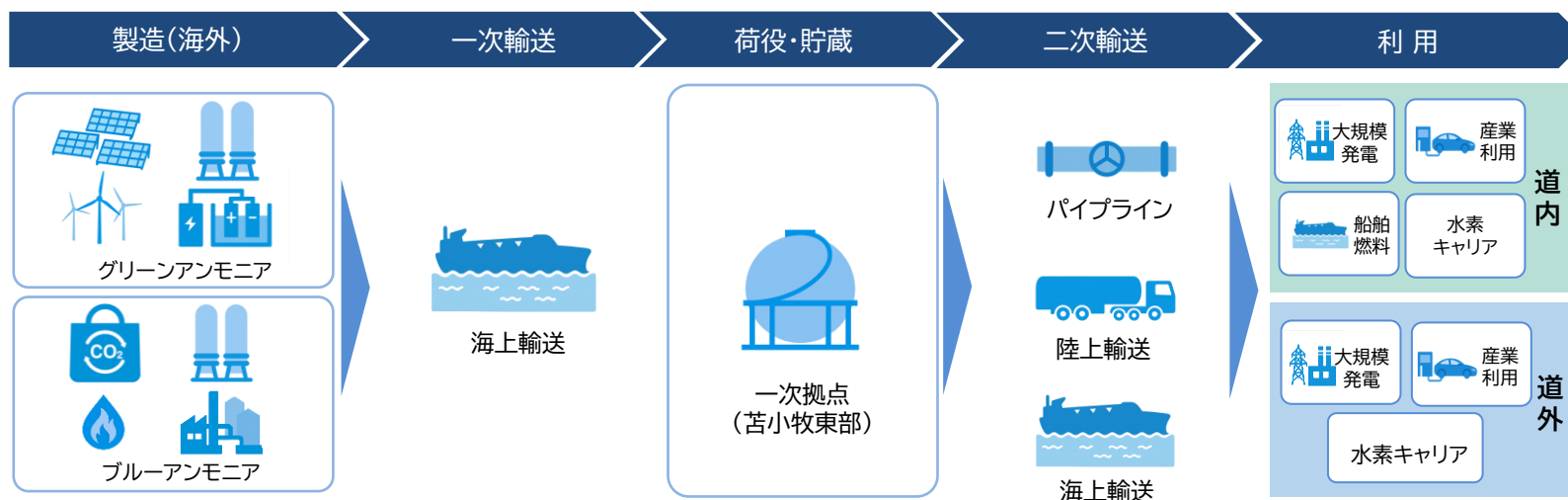
(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【新たなエネルギーサプライチェーンの構築】

- 2030年度までの国産グリーン水素およびアンモニアのサプライチェーン構築を目指しています。

[北海道(苫小牧)国産グリーン水素サプライチェーンのイメージ]



[アンモニアサプライチェーンのイメージ]

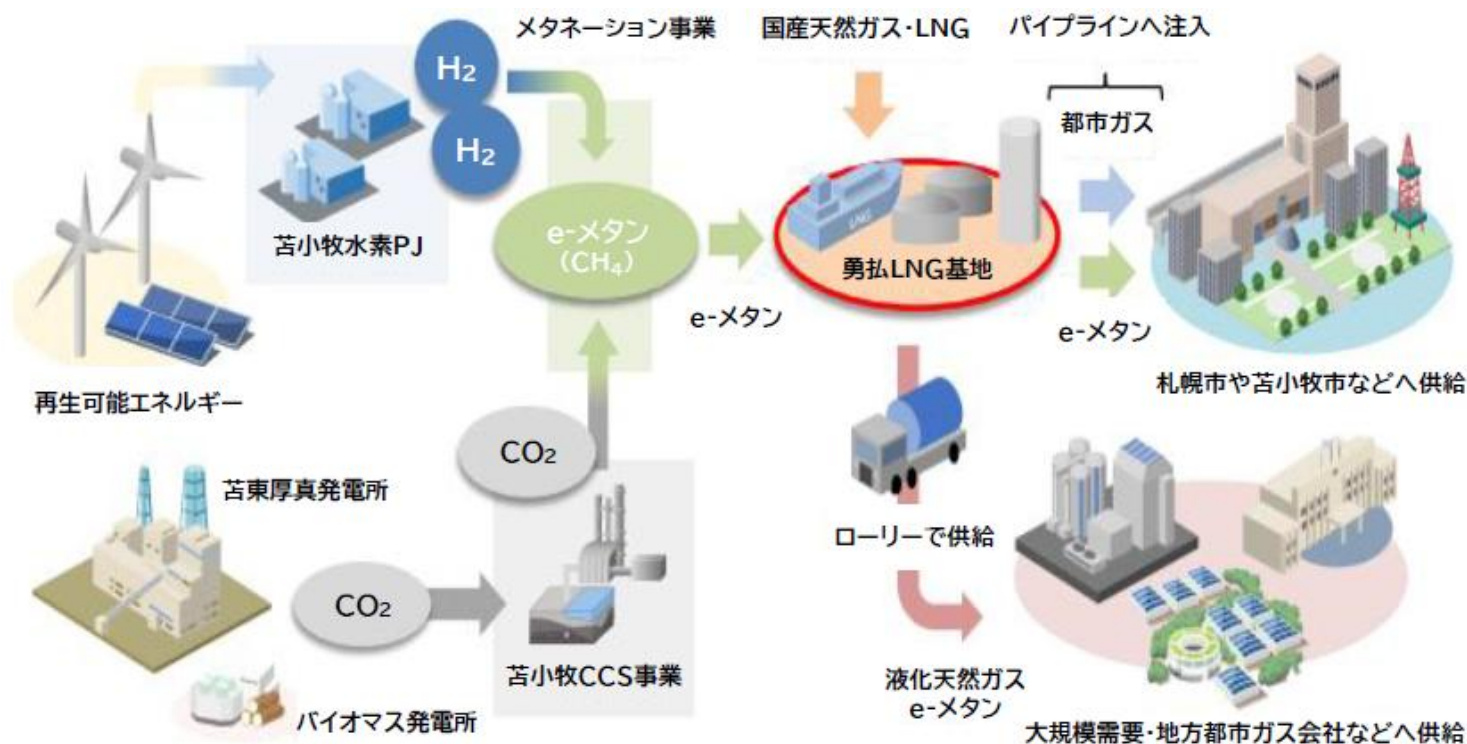


2. ほくてんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【新たなエネルギーサプライチェーンの構築】

- これまで取り組んできたガス小売から事業領域を拡大し, 石油資源開発株が道内で運営するガス製造事業, 販売事業および導管事業を譲り受け(2026年度中を予定), 製造から販売まで一貫したガス事業のサプライチェーンを構築します。
- 次期LNG火力発電所の設置等に向けた検討も進めています。

【譲り受ける事業を活用したガスサプライチェーンのイメージ】



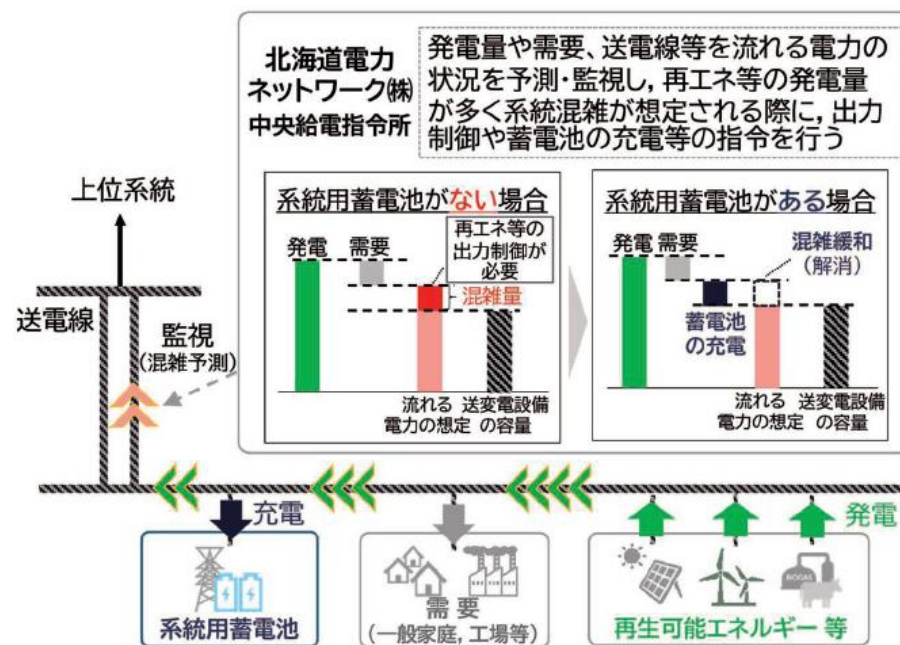
2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(3) 北海道の発展に向けたGX実現への挑戦【送配電】

- 北海道電力ネットワーク株式会社では、北海道の豊富な再エネポテンシャルの最大の活用に向けて、新たな技術・知見をもとに安定供給の確保と再エネの導入拡大の両立に努めます。

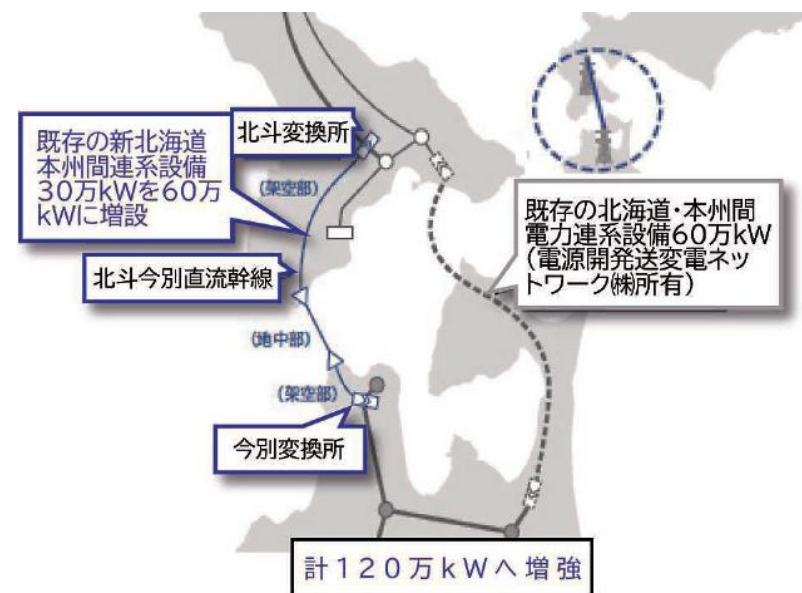
系統用蓄電池を活用した系統混雑緩和のイメージ

- ▶ 再エネの有効活用に向け、(株)三菱総合研究所と共同で、系統混雑緩和技術の開発に関する実証事業を行っています。



新たな連系線の整備・増強

- ▶ 現在の新北海道本州間連系設備と同一ルートにおいて、2028年3月の運用開始を目指し、30万kWの連系線増強工事を進めています。



1. 北海道電力のご紹介

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み
(4) 新たな価値創造に向けた挑戦

3. 経営目標・株主還元



2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(4) 新たな価値創造に向けた挑戦

- 快適・あんな暮らしにつながる多様なサービスを提供しています。

[具体的な取り組み事例]

暮らし応援サイト「ほくでんエネモール」

- ▶ 電気・ガスのご利用状況の確認のほか、ポイントも貯められる、北海道の生活を楽しむ情報満載のWebサービスです。

ほくでん エネモール
Ene・Mall

北海道の暮らし応援サイト

ほくでんエネモールへようこそ



便利に



おトクに



楽しむ

銀行サービス「ほくでんBANK」

- ▶ 2026年10月、スマートフォン完結型の銀行サービス「ほくでんBANK」を開始します。
- ▶ 独自のサービスとして、電気料金に応じてエネモポイントの付与を行います。

ほくでんユーザーなら

ほくでんBANK

毎日の暮らしにもっとおトクを。ほくでんの新しい銀行サービス

電気・ガス料金の最大10%をポイント還元!



北海道電力株式会社は、株式会社UI銀行を所属銀行とする銀行代理業者として、「預金の受入れ」、「資金の貸付け」、「為替取引」を内容とする契約の締結の媒介を行います。

道産品販売サイト「きらめくストア」

- ▶ 道産品オンラインショップを通じて北海道の魅力を広く発信しています。



2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(4) 新たな価値創造に向けた挑戦

- 北海道が有する強み・ポテンシャルや地域社会が抱える課題から事業機会を見出し、農林水産業、観光、福祉等、地域活性化や社会課題の解決に資するさまざまな分野において、共創の取り組みにより新たな価値を創出していきます。

[具体的な取り組み事例]

省エネ型小型植物工場事業

- ▶ プランツラボラトリー(株)と連携してニセコエリアなどで展開する省エネ型小型植物工場では、葉物野菜の通年生産供給を行い、省エネやフードマイレージの削減に取り組んでいます。



水力発電施設の活用による酒類の熟成

- ▶ 上川大雪酒造(株)と共同で、京極発電所内にあるトンネルを活用し、付加価値の高い熟成酒を造る実証事業を行っています。



1. 北海道電力のご紹介

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み (5) 持続的な成長に向けた経営基盤の強化

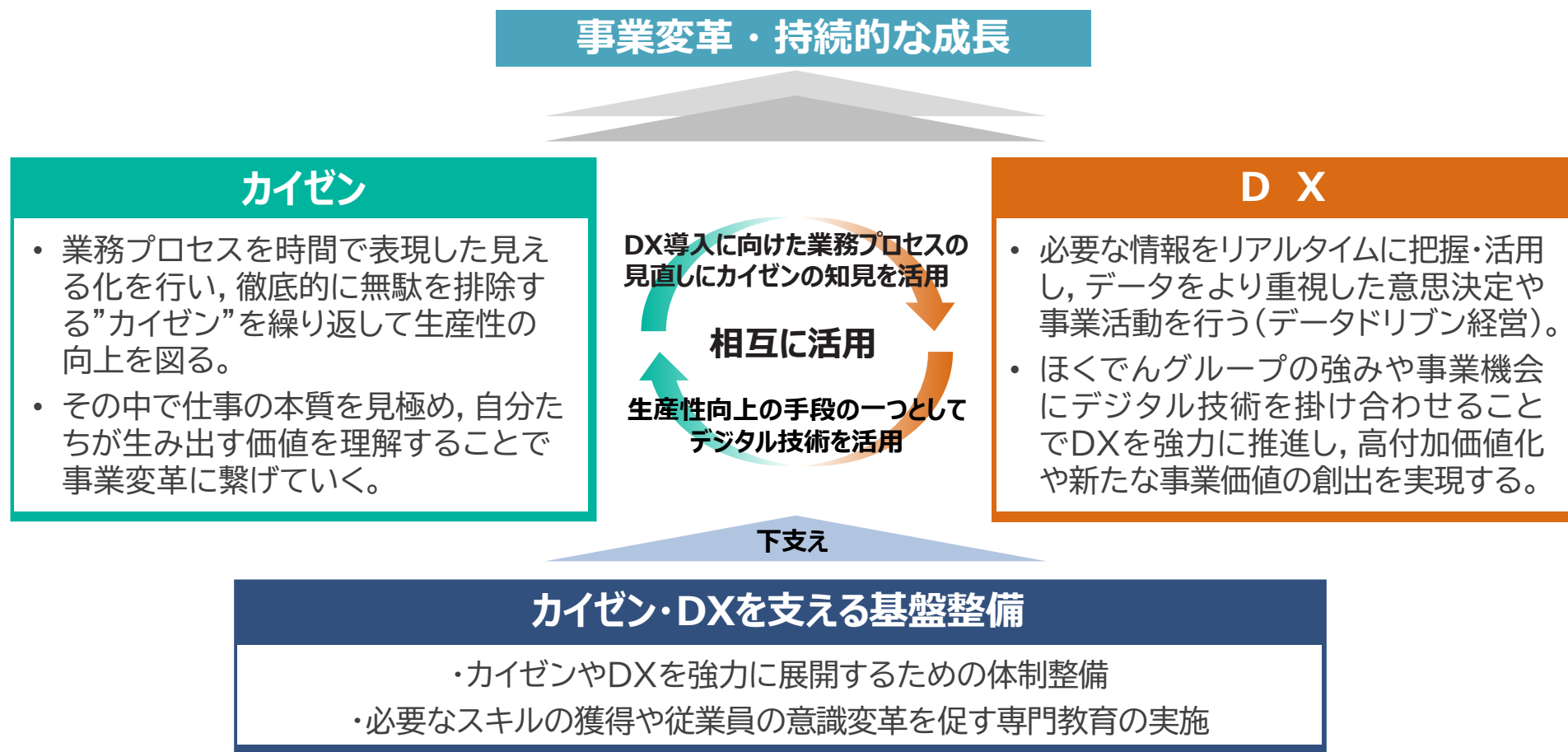
3. 経営目標・株主還元



2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(5) 持続的な成長に向けた経営基盤の強化

- カイゼンやDXが「変革する力」の源泉の一つであるとの認識のもと、カイゼンやDXを強力に展開するとともに、これらを支える基盤整備に取り組んでいきます。

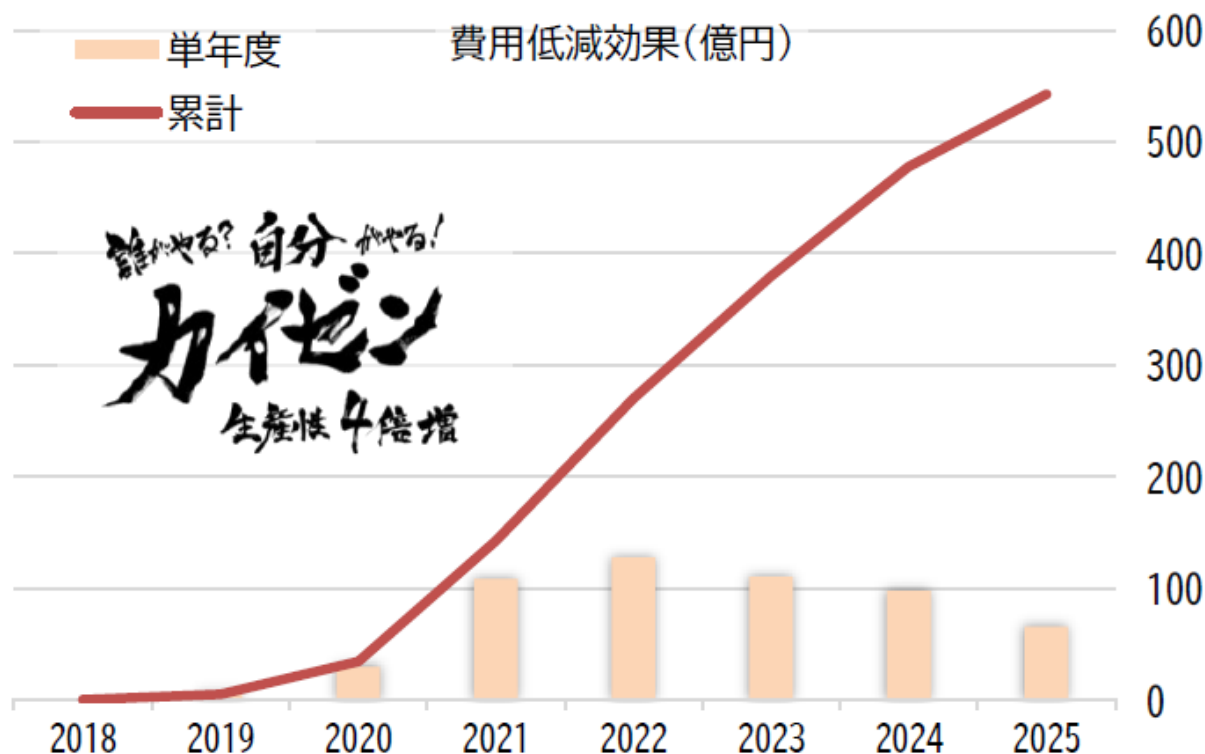


2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(5) 持続的な成長に向けた経営基盤の強化

[カイゼンの浸透・拡大状況]

- カイゼンの取り組みは拡大し、ほくでんグループ全体に浸透・定着しつつあります。
- 現在までに、グループ全体で約4,700件のプロジェクトを展開し、費用低減効果を確実に積み上げています。



※ 当社および北海道電力ネットワーク㈱における取り組み効果の合算値

※ 中長期的に効果が見込まれるものや他の業務にリソースを活用するものを含む

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(5) 持続的な成長に向けた経営基盤の強化

[DXの推進の一例]

- 2026年4月より, 最先端のAIを活用した系統用蓄電池需給管理サービス「Enerista(エネリスタ)」の提供を開始しました。
- 本サービスは, 系統用蓄電池を所有する全国の事業者を対象として, 充放電計画の策定, 制御および各種市場への入札・各種精算業務等, 需給管理を行うために必要な業務の全てを当社が行うサービスです。



2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

(5) 持続的な成長に向けた経営基盤の強化

- ほくでんグループの持続的な成長を支える原動力は「人」とあるとの認識のもと、従業員一人ひとりが働きがいを感じ、一層成長し活躍できるよう、「ほくでんグループ人材戦略」に基づき、人材育成や環境整備に取り組んでいます。

[ほくでんグループ人材戦略のアウトライン]

[環境整備の例]

人材戦略の2つの基本コンセプト

人材育成

必要なスキルを身に付け、自律的に挑戦・変化していく人材の育成

環境整備

多様な人材が互いに認め合い、働きがいと成長を感じながら活躍する環境の整備

従業員の
成長・活躍

企業価値
の向上

人材戦略のゴール

今ある価値を高めながら、新たな価値を生み出していく企業風土の創造

ダイバーシティ＆
インクルージョン
の推進



他業種との懇談会の様子

健康経営の推進



2026
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門
ホワイト500

健康経営®は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

2. ほくてんグループの成長戦略と取り組み

(5) 持続的な成長に向けた経営基盤の強化

- 地域社会に根差した取り組みを通じて、地域との結びつきを強めています。

[具体的な取り組み事例]

スポーツの力による地域活性化

- ▶ 当社は、プロサッカークラブ「北海道コンサドーレ札幌」とオフィシャルトップパートナー契約を締結しています。また、(一社)北海道プロ野球独立リーグと連携協定を結んでいます。
- ▶ スポーツが持つ、地域の発展に寄与する様々な力を活用しながら、地域活性化に寄与していきます。



林業専門学校との植樹活動

- ▶ 2021年から道民の森(当別町)にて「道立北の森づくり専門学院」と共働で、植樹活動や勉強会を行っています。



SDGs教育支援

- ▶ ファシリテーターとして認定された社員が、北海道の小学生へのSDGs教育支援を実施しています。



1. 北海道電力のご紹介

2. ほくでんグループの成長戦略と取り組み

3. 経営目標・株主還元



3. 経営目標・株主還元

- 経営ビジョンにおいて示す取り組みを通じて、以下の経営目標を達成していきます。

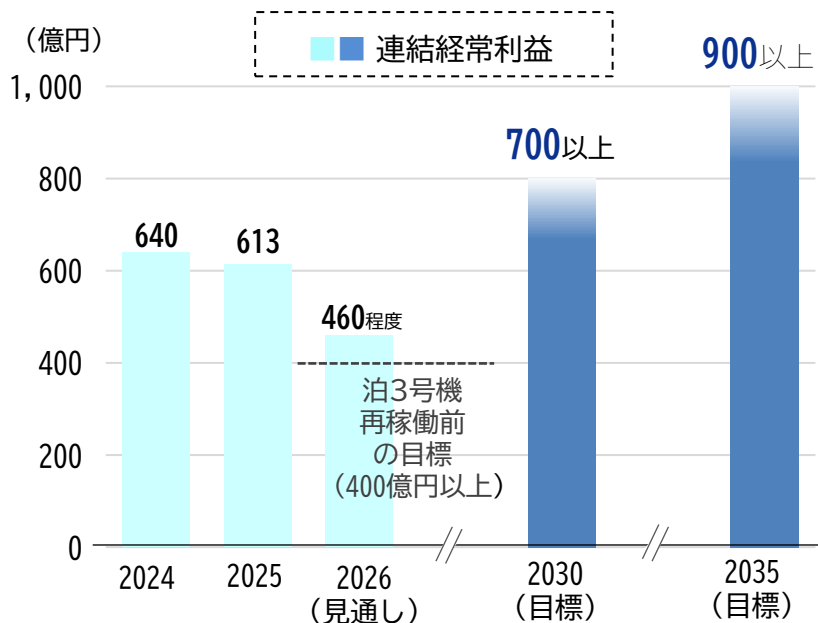
	2025実績	泊3号機再稼働前	2030年度	2035年度
販売電力量(小売)	221億kWh	290億kWh以上	330億kWh以上	
温室効果ガス排出削減	▲11%	2013年度比：▲46%	2013年度比：▲60%	
温室効果ガス削減貢献	20万トン	150万トン	250万トン	
CN関連投資額	223億円	4,000億円程度(2025～2035累計)		
再エネ目標 (開発規模ベース)	20.9万kW	100万kW以上 ※持分ベースで30万kW以上	300万kW以上 ※持分ベースで100万kW以上	
経常利益	613億円	400億円以上	700億円以上※	900億円以上※
ROIC(WACC)	2.8%	3.0%以上(2.2%程度)	3.5%以上(2.4%程度)	
ROE	10.4%	8%以上		
自己資本比率	18.5%	20%以上	25%以上 (将来的な目標は30%)	
EBITDA有利子負債倍率	10.3倍	11倍程度	8倍以下	
配当(年間) 〔DOE(株主資本配当率)〕	32円/株 (1.8%)	DOE2%を目安とした安定配当 (泊3号機の再稼働までは、DOE2%を目指しつつ、財務基盤の回復を図ることを念頭に置きながら総合的に判断)		
次世代エネルギー投資額	12億円	2,500億円程度(2025～2035累計)		
人的投資 (付加価値/人件費)	1.1倍	—	2024実績比：1.5倍程度	
DX投資額	20億円	300億円程度(2025～2035累計)		

※泊発電所再稼働に伴う料金値下げを考慮

[連結経常利益・ROIC・ROE]

- 泊発電所の全基再稼働のほか、小売販売電力量の増加や、提供する商品・サービスの拡充、事業機会の拡大等により、利益を着実に向上させていきます。
- 事業ポートフォリオマネジメントにより、高収益事業への投資を強化するとともに、各事業におけるさらなる収益性向上を図ることでROICを3.5%以上に向上させます。そのことによって、適正な自己資本を確保しながら、ROE8%以上の維持を両立させていきます。

連結経常利益の推移

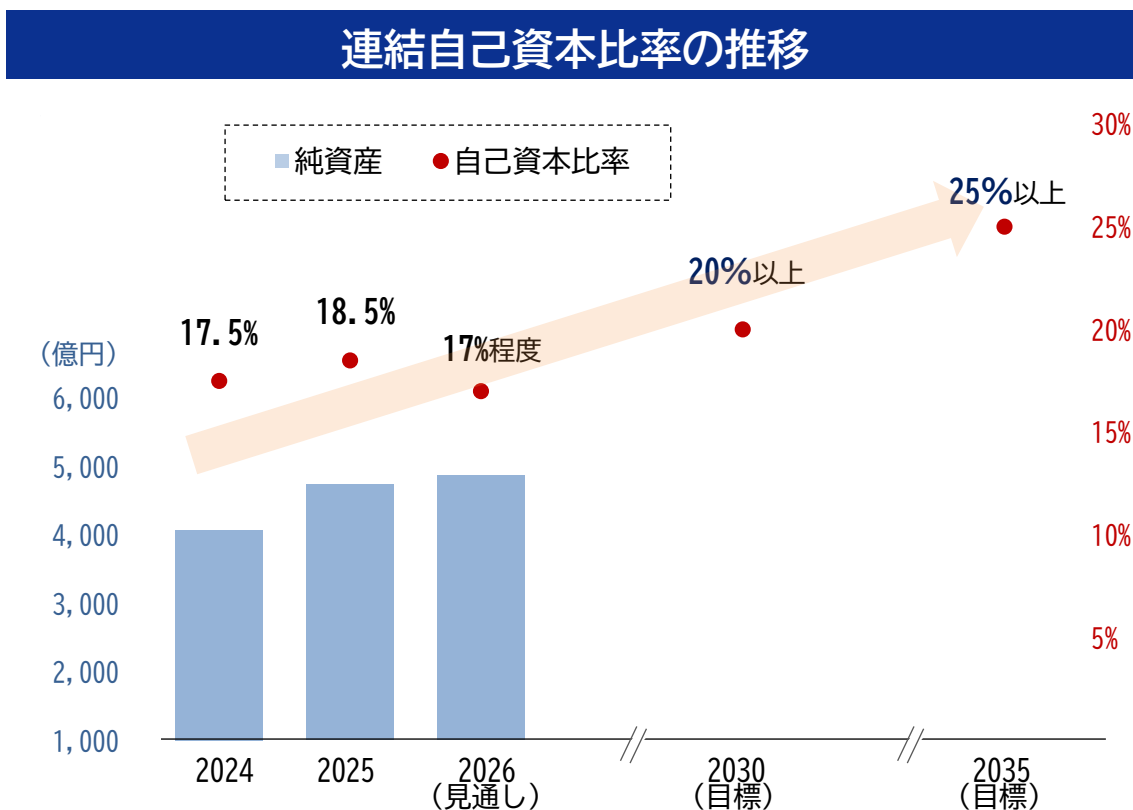


ROIC・ROEの推移

	2025	2026 (見通し)		2030 (目標)		2035 (目標)
ROIC	2.8%	2.1%程度	→	3.0%以上	→	3.5%以上
ROE	10.4%	7.1%程度	→	8.0%以上	→	8.0%以上

[自己資本比率]

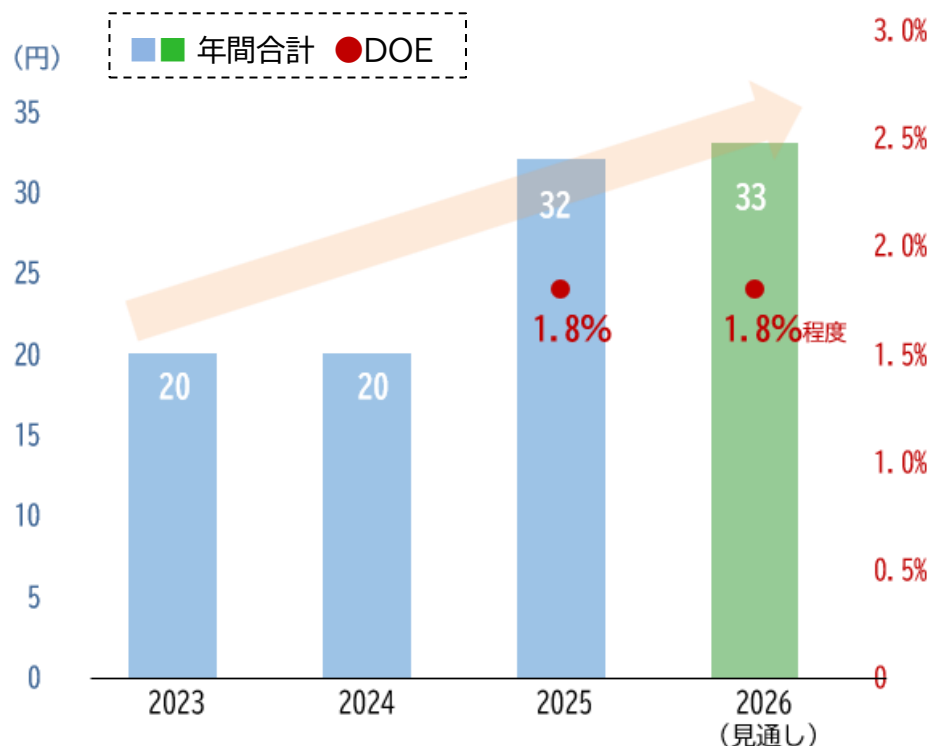
- 自己資本比率は、2035年度末で25%以上を目標とし、将来的には、財務健全性の向上と財務レバレッジ活用の両立の観点から、30%の達成を目指していきます。



[株主還元方針]

- 安定配当方針を維持しながら、株主還元の予見性を高めるため、DOE(株主資本配当率)を導入しました。

株式配当の推移



2025年からの株主還元方針

DOE2%を目安とした安定配当

- 泊3号機の再稼働までは、DOE2%を目指しつつ、財務基盤の回復を念頭に置きながら総合的に判断していきます。

2026年度の配当予想

普通株式:年間1株当たり33円
(中間・期末ともに1株当たり16.5円)

※2025年度は年間1株当たり32円
(中間1株当たり15円, 期末1株当たり17円)

本日のご説明のポイント

北海道では、GX産業立地による電力需要の増加が期待でき、北海道を主な事業基盤とする当社にとって、絶好の事業機会が到来している状況です。

「北海道の発展に向けたGX実現への挑戦」、「新たな価値創造に向けた挑戦」、「持続的な成長に向けた経営基盤の強化」の3つのテーマに取り組みます。

- [具体的な取り組み]
- ✓ カーボンニュートラルの実現に向けた原子力発電と再生可能エネルギーの最大限活用, 次世代型電力ネットワークの構築
 - ✓ 新たなエネルギーサプライチェーンの構築
 - ✓ お客さまに提供する価値の拡大・創造, 事業共創の展開
 - ✓ カイゼン活動・DXの活用による事業変革の推進

ほくでんグループは、2035年に向けた経営目標の達成を目指すとともに、2050年の北海道におけるエネルギー全体のカーボンニュートラルの実現に最大限挑戦します。

ほくでんグループのさらなる成長を通じて、持続可能な社会や安心・安全な暮らしを支えていきます。

ともに輝く明日のために。
Light up your future.



ご清聴ありがとうございました。



本資料は2026年9月30日現在のデータに基づいて作成しています。

また、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料には将来の業績に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

将来の業績は経営環境に関する前提条件の変化等に伴い変化することにご留意ください。